

海洋科学技術センター創立30周年記念
国際海洋研究機関長ラウンドテーブル「21世紀の海洋科学」の開催と
「横須賀宣言」について

平成14年9月18日
海洋科学技術センター

1. 特別認可法人海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）は、9月18日（水）午後、創立30周年を記念して国際海洋研究機関長ラウンドテーブル「21世紀の海洋科学」を横須賀市の海洋科学技術センター本部で開催した。

2. 本ラウンドテーブルには14の世界の主要な海洋研究機関から所長等が参加し、海洋科学研究の基本戦略、データネットワーク構想等について活潑な意見交換を行った。

3. ラウンドテーブルで合意された海洋科学推進の基本方針は以下のとおり。

（別紙「[横須賀宣言](#)」参照）

- 地球システムの総合的理解と予測のため、海洋科学を通じて地球とその生態系を探究する。
- 深海、極域、南半球域、海底深部などの未踏領域の調査観測を充実する。
- データの自由な交換とアクセスを伴った全球観測ネットワークと、データ・情報ネットワークの構築を目指す。
- より有効な観測と、よりよい予測のために、新たな技術・数値モデルを開発する。
- 海洋とその資源の重要性を、多分野の研究を通して得られた社会的利益を伴った科学的問題点とリンクしながら、一般社会や政策決定者の認識が高まるよう努める。
- 新世代の海洋研究者を、彼らの立場における科学的、工学的そして社会的アスペクトの認識のもとに教育する。

この方針の下、出席した海洋研究機関は、もてる資源と能力を結集して地球環境問題に積極的に貢献していくことで一致した。

4. 海洋科学技術センター及び参加各研究機関は、この成果を「[横須賀宣言](#)」としてとりまとめた。今後、関係機関に広く周知して地球環境問題解決に向けた協

力・連携を呼びかけることとしている。

以上

JAPANESE

YOKOSUKA STATEMENT - Ocean Science in the 21st Century -

On the occasion of the 30th Anniversary of the Japan Marine Science and Technology Center, we, representatives of the world's 14 major oceanographic institutions meeting at Yokosuka, hereby share the following recognition.

Our knowledge of the systems of Earth increased dramatically in the 20th century, a century in which the floating Earth was first viewed from space, and deep-sea ecosystems living without light were discovered. We learned how tectonic plates are dynamically produced, moved, and subducted. We also studied how the Earth's systems, including the atmosphere, hydrosphere, lithosphere and biosphere, interact with each other, and how human beings live together with these systems. Nevertheless, the vast majority of the oceans remains unknown and unexplored.

In addition, serious problems concerning global environmental changes such as global warming and depletion of ocean resources, in particular living resources, now threaten our planet. Appropriate measures must be taken to mitigate these and to achieve sustainable development. The oceans, occupying 71 percent of the Earth's surface, play a crucial role in maintaining the balance of the global environment.

We believe that the following approaches are important in order to develop a greater understanding of the unknown frontier, the Ocean, and to predict global environmental changes:

-exploring the Earth and its ecosystem through research in ocean science as an essential contribution to understanding and predicting the Earth system, and as a prerequisite for wise decision making;

-improving systems for observing little known areas, such as the deep ocean, polar regions and the Southern hemisphere;

-establishing a global observation network with free exchange and access to data, and a global data and information network;

-developing technologies and numerical models for more effective observations and better predictions;

-strengthening recognition of the importance of the ocean and its resources by both the general public and policy makers by linking scientific issues with societal benefit through multidisciplinary research;

-educating new generations of ocean researchers cognizant of the scientific, engineering and societal aspects of their work.

On behalf of major oceanographic institutions researching the huge potential of the oceans, we declare today that we will make every effort to obtain and contribute resources in a concerted manner, and to enhance mutual cooperation to help solve global environmental issues.

横 須 賀 宣 言 - 21世紀の海洋科学 -

海洋科学技術センターの創立30周年を記念して横須賀に集った、我々世界の主要な14の海洋研究機関の代表は、以下の認識を共有した。

20世紀は地球についての理解がめざましく進展した。人類は初めて宇宙に浮かぶ地球を眺め、光に依存しない深海の生態系を発見した。また、深海底においてプレートがダイナミックに生成し、移動し、消滅していることを知った。そして、気圏、水圏、地圏、生物圏それぞれが相互に関連しあって地球という一つのシステムを形成し、その中で人類が生存していることを理解するようになった。しかしながら、海洋の大部分はいまだに未知であり、探求されていない。

加えて、我々は今日、気候温暖化及び海洋資源、特に生物資源の涸渇など、地球規模の深刻な環境問題に直面している。こうした問題を緩和し、人類社会の持続的発展を実現するため適切な対策を講じなければならない。地球表面の71パーセントを占める海洋は、地球環境のバランスを維持する決定的な役割を果たしている。

未知のフロンティアであるこの海洋をもっと深く理解し、地球規模の環境変動の予測を可能にするため、我々は今後、以下の方針で21世紀の海洋科学を推進していくことが重要であると考えます。

- 地球システムの理解と予測に貢献し、また賢明な意思決定の前提を提供するため、海洋科学の研究を通じて地球とその生態系を探求する。
- 深海、極域、南半球域など解明の進んでいない領域の調査観測システムを充実する。
- データの自由な交換とアクセスを伴った全球観測ネットワークと、全球データ・情報ネットワークの構築を目指す。
- より有効な観測とより良い予測のために、新たな観測技術と数値モデルを開発する。
- 多分野な研究を通して科学的問題を社会的利益に結びつけることによって、海洋とその資源の重要性について一般社会や政策決定者の認識を高める
- 海洋研究における科学的、工学的及び社会的な視点を十分認識した新たな世代の海洋研究者を養成する。

広大な海洋のポテンシャルを研究対象とする、世界の主要な海洋研究機関を代表して、ここに我々は、研究資源の確保とそれによる貢献に協調して努力するとともに、地球環境問題の解明に向けて相互の協力を強化していくことを、

宣言する。

署名日：2002年9月18日

署名者：

イアン ポイナー博士

連邦科学産業研究機構
海洋研究所 副所長
(CSIRO Marine Research, オーストラリア)

ローラ リチャーズ博士

海洋漁業省太平洋領域科学局長
兼海洋科学研究所 所長
(IOS/DFO, カナダ)

李 家彪教授

国家海洋局第二海洋研究所 副所長
(SIO / SOA, 中国)

ジャン・フランソワ マンステール教授

国立海洋開発研究所 所長
(IFREMER, フランス)

ヨルン ティーデ教授

アルフレッド・ヴェグナー極域海洋研究所 所長
(AWI, ドイツ)

平 啓介教授

東京大学海洋研究所 前所長
(ORI, 日本)

卞 相慶博士

韓国海洋研究所 所長
(KORDI, 韓国)

ハワード S.J. ロー教授

サザンプトン大学
サザンプトン海洋研究所 所長
(SOC, 英国)

G. マイケル パーディー博士

コロンビア大学
ラumont・ドハティー地球観測研究所 所長
(LDEO, 米国)

マルシア マクナット博士

モントレー湾水族館研究所 所長
(MBARI, 米国)

エディー N. ベルナル博士

海洋大気庁太平洋海洋環境研究所 所長
(PMEL, 米国)

チャールズ F. ケネル博士

カリフォルニア大学
スクリプス海洋研究所 所長
(SIO / UCSD, 米国)

ロバート B. ガゴシアン博士

ウッズホール海洋研究所 所長
(WHOI, 米国)

平野 拓也

海洋科学技術センター 理事長
(JAMSTEC, 日本)